

研究・調査報告書

報告書番号	担当
506	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Influence of diet on nipple aspirate fluid production and estrogen levels. 食事の乳頭吸引分泌物およびエストロゲン水準に対する影響の検討	
執筆者	
Morimoto Y, Conroy SM, Pagano IS, Franke AA, Stanczyk FZ, Maskarinec G.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Food Funct. 2011;2:665-70.	
キーワード	
乳頭吸引分泌物、エストロゲン、食事、乳がん	
要 旨	
背景： 栄養因子の乳癌に対する影響の一つの機序として、エストロゲン水準への影響が考えられている。乳頭吸引分泌物は血清よりも乳腺組織においてより直接的にホルモン系へ影響を与える。乳頭吸引分泌物の産生能力は乳癌リスクとなる可能性が高い。	
方法： Soy 試験の一部として、92 人の閉経前の女性を対象に、ベースライン時の平素の食事摂取と乳頭吸引分泌物の量、乳頭吸引分泌物内および血清中の最も主要なエストロゲンとの関連を評価した。高感度放射免疫測定法を用いて、乳頭吸引分泌物内のエストラジオール E2 およびエストロンエステル E1S、血清内の E2、エストロン E1、および E1S を測定した。多変量解析については、ロジスティック回帰モデルを用いた。	
結果： 飽和脂肪摂取とチーズ摂取は乳頭吸引分泌物の量と正の関連の傾向があり ($p = 0.06$)、一方イソフラボン、豆摂取は負の関連を認めた (それぞれ $P = 0.01$ 、 0.08)。乳頭吸引分泌物内のエストロゲンについては、総脂肪および一価不飽和脂肪摂取と E2 の正の関連 (それぞれ $P = 0.05$ 、 0.02) を認め、血清内については、飲酒と E1S との間に正の関連を認めた ($p = 0.02$)。	
結論： 食事摂取は弱いながら乳頭吸引分泌物、および血清および乳頭吸引分泌物内のエストロゲン水準に影響を与える。	